

●オオムラサキの一週間連続観察調査結果 この数年間オオムラサキの成虫が確認できていないので、今年は一週間の連続観察計画としました。多くの皆様のご協力を得て、特に世話係の金田さんには毎日行っていていただき、トラップにも工夫を凝らして、念入りに準備を頂きました。予定していた期間は快晴という天気はなかったのですが、ほとんどが曇りないし雨天続きで、飛翔には都合の悪い条件でした。またコナラやクヌギの大木が台風で倒れ、山の環境が相当悪くなっています。冬の幼虫観察会でも 1 匹の幼虫の発見に終わっていました。様々な悪条件が重なっているように見えます。この影響からか、7 日間の連続観察調査では成虫の飛翔には出会うことが無く誠に残念な結果となりました。数日前から設置していただいたトラップには工夫を凝らしていただきました。その成果は、ノコギリクワガタやカナブンが予想を超えた多数の確認が出来ました。これまで数年間を通じてこれだけの数量が継続されたことはありませんでした。まさに空前絶後の大きな成果が得られました。工夫を凝らしたトラップの効果はすごい威力を発揮していたと考えられます。即ち調査準備は十分な対応が出来ていたと言えます。成虫の確認はできていない中これまでは冬の幼虫観察会では成果が見られていました。しかし今回の調査からこの冬の幼虫確認が出来るのかにかかっています。非常に大切な時期を迎えているようです。オオムラサキの生息数は、冬の幼虫観察の結果がさらに重要になってきていると考えます。

●親子で遊ぼう学ぼう魚とりの案内チラシ(76 校分 35415 枚)を乙訓を除く山城地域の全自治体の教育委員会に配布を完了しました。市町村教育委員会が全小学校への配布協力理解があつて子どもたちに届けられるのです。この取り組みは親子での共同作業のチャンスが減少していること、自然への触れ合う場面が少なくなっていること、大きな川への接近の機会が禁止されていることなど、事故防止のため近づけなくなっていること、そして自らの手で水中の魚の捕獲から得られる喜び、魚を捕るための工夫、川での体験は陸上ではめったに得られない体験と喜び、そして山城地域の中心を流れる川の役割や果たしてきた地域文化や歴史を語りあい、現地で得られる素晴らしい学びなどは川に来ないと得られないものです。私たち里山の会は、今日では得難い体験の場を十数年にわたって開催してきました。今年もプログラムに工夫を重ね改善しながら案内チラシを作成しています。今年も各自治体教育委員会の学校教育関係者係に配布依頼をいたしましたところ、快く協力を得ることができました。中でも城陽市教育委員会では、担任教師の負担軽減をはかりながら、どの子にもきちんと届けるためにクラス人数に仕分けを行っていただけるとありがたいのご意見がありました。今年は環境課の皆さんが総出で仕分けを行っていただきました。そのほか児童一人ひとりに手渡すには担任の先生の負担が大きいので、今年は配布しますが、来年度からは配布しないことになっていますと宣言される教育委員会もありました。まさにこの取り組みを歓迎されるところと、まったく迷惑だと受け止められる両方向に分かれた動きが現れてきました。否定的な方針のご意見の自治体でも担当者のご意見はいずれも素晴らしい取り組みであるとの評価でした。

●QRコードからインターネットを使った申し込みが可能になりました。往復はがきが値上がりし負担が大きくなっているのでスマホやパソコン等電子機器での申し込み方法の追加で、少しでも軽減できたらと太田敏之さんのご奮闘で改善が出来ました。ご利用に期待が膨らみます。

●開催日と募集地域は次の通り 7月21日(日) 旧綴喜郡域(京田辺市 八幡市 宇治田原町 井手町。 7月28日(日) 宇治市域。 8月3日(土) 旧久世郡域(城陽市 久御山町)。8月4日(日) 相楽郡域(木津川市 和束町 精華町 南山城村 笠置町) 全開催日共通で募集人数は 50 組、先着受付で締め切りとなります。特に、世話役を引き受けていただける方を最優先で受付としていますのでご注意ください。

●魚とりチラシの印刷と配布枚数の仕訳作業に 3 日間大奮闘が続きました。各学校の児童数に仕分けが大作業です。総枚数 37000 枚のチラシを募集地域別の 4 種類に変更しましたので、混乱しないよう分別が

複雑になりました。新しい工夫をしたものですから昨年比較で随分と難作業になりました。そして紙質もコート紙に変更したので、非常に重たく取り扱いに苦労が伴いました。その結果写真などが美しく鮮明に改善されました。

●各自治体教育委員会への配布は10日に完了しました。10日の定例事務局会議の時間を短縮して作業時間を確保しました。織り込み作業 枚数調整 くくり梱包作業校名やの枚数記入、挨拶依頼文の封筒挿入等随分と細かい事前準備に随分と時間が必用でした。配布作業は宇治市は22校 11135枚、 城陽市は10校 4380枚、 八幡市は8校 4030枚、京田辺市は9校 4910枚、木津川市は12校 6120枚その他精華町 2630枚、久御山町 1000枚、井手町 370枚、和束町など相楽東部 320枚を終日トラックで駆け回りました。

●竹蛇籠製作体験と報告シンポジウムの開催の方向で検討始まる 開催予定日19月12日(土) 場所は京田辺市内を予定しています。主な概要は、午前に竹蛇籠の製作体験と中聖牛設置の現地説明、午後は室内での報告、発表、講演、交流会・懇親会です。

●2019年度第1回近畿子どもの水辺交流会 実行委員会が大阪府庁公館(天満橋)出席者30人で開催されました。決定事項は

2019年度近畿子どもの水辺交流会の開催予定日 2020年1月25日(土) 京都府八幡市 文化センター。参加費無料 発表者1グループ15000円頭打ちで実費支給 弁当持参、予算総枠100万円で会場費予定30万円と報告されました。引き続き実行委員長山村武正、副実行委員長に鈴木康久氏を決定、受け入れ責任者に北野大輔氏を承認、輪番制を取り入れるなら次回事務局は奈良県となる。奈良県の意向はどうかの質問があり、時間に余裕があるので、次回10月の第2回実行委員会で表明するとしてそのうえで議論を行う。事務局の京都府河川課からはアンケートの概要では、このとりくみは継続させていきたいとの強い賛同の意見が多くあった。問題は資金獲得が最大の課題であり、最大限のスタッフの協力は行うとの表明がされているとの発表だった。

●植物部会の定番観察会が7月12日(金)木津川左岸京田辺市飯岡・船公園集合で開催 参加費無料 参加者は午前9時半に現地に集合、正午過ぎには現地解散。木津川堤防での貴重植物の宝庫での恒例の散策となります。少雨決行です。連絡は伊藤千恵子さんと090-9612-7333まで、集合地へは近鉄三山木駅下車、東へ徒歩14分、玉水橋手前を北に徒歩5分、飯岡船の公園。

●夜の生き物調べ 7月20日16時集合 里山農園教育棟 夕食弁当持参 寝袋持参 防虫対策 うちわ タオル 第1部16時~22時 第2部22時~2時、第3部2時~6時、どの時間帯でも参加自由 帰宅も自由。 昆虫や生物の同定で即決できないものは、写真撮影で、後日同定結果を通知します。

● 木津川のココが面白い ~自然と生き物の世界~ (京都を学ぶセミナー)南山城第3回

講師は竹門康弘 京都大学防災研究所水資源環境研究センター准教授 専門は土木環境システム
木津川の自然環境と水質利用の関係を解説します。そして環境に適応した多様な生き物たちの諸相を明らかにしていきます。

里山の会は竹門先生と最初に出会ったのは新名神高速道路建設で木津川鉄橋の基礎工事において、深層から汲み上げられる地下水のタンクにおける生き物を採取し解説いただいたことです。太陽の光が届かない地中で生き物が生活している実態に参加者が驚きました。その後竹蛇籠の製作や中聖牛の設置で、ご指導をいただいています。その後木津川の河床低下問題を通じて数多くのご指導をお願いしています。中でも大井川で活躍中の原小組さんの紹介や中聖牛の設置に中国の学者が訪れるなどのお世話をいただきました。この際に多くの皆様のご参加を呼びかけます。新しい木津川への視点が見つけられると思います。府下各地の関係者からの反応が返ってきています。期待の大きさが伝わってきています。里山の会の皆様、そして木津川に関心をお持ちの皆様のご参加を呼びかけます。

7月16日(火) 13時30分~15時(受付13時~)

京都府立大学・歴彩館 京都市左京区下鴨半木町1-29 地下鉄烏丸線北山駅徒歩4分